

二十歳の節目を迎えられた皆さんの輝かしい門出を心からお祝い申し上げます。

これまで支えていただいた多くの方々に対する感謝の気持ちを忘れずに、未来を担う皆さんが、大きく飛躍されることを期待しています。

さて、昨年は日本野菜ソムリエ協会主催「第3回全国いちご選手権」において、県内青年生産者の作った「あまりん」が最高金賞を受賞し、3連覇を達成しました。「第3回クリスマスいちご選手権」においても県内生産者の「べにたま」が最高金賞を受賞して3連覇を果たし、全国選手権において県育成品種が6回目の最高金賞受賞となりました。本県は、最もおいしいいちごを生産している「プレミアムいちご県」として全国で唯一、3年連続で認定されています。皆様にも是非味わっていただきたいと思えます。

また、耳が聞こえない・聞こえにくい方を対象に行われた東京デフリンピックでは県ゆかりの選手が大活躍し、バドミントンの女子ダブルスと混合団体戦、空手女子個人組手ー61kg級、テニス女子ダブルス、バレーボール女子、バスケットボール女子では、金メダルに輝くなど、私たちに夢と希望を与えてくれました。

一方、本県は今、「人口減少と超少子高齢社会の到来」と「激甚化・頻発化する自然災害などへの危機対応」という時代の転換期における二つの歴史的課題に直面しています。これらの歴史的な課題を的確に捉えた中長期的な施策の先手を打って展開し、今後、埼玉県が持続的に成長・発展していく未来に向けて飛躍をしていかなければなりません。

そこで、県では、「渋沢MIX」によりオープンイノベーションの創出やスタートアップの事業成長などを支援するとともに、「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」をより加速し、サーキュラーエコノミーについても一層推進しています。また、安心して子どもを産み育てられる社会、子どもたちが未来への希望を持てる「子どもまんなか社会」の実現に向けた様々な取組を進めております。さらに、関係機関との強固な連結を推進する埼玉版FEMAの充実を図るとともに、緊急性の高い防災・減災対策を強化してまいります。

本県が誇る偉人の本多静六博士は、我が国初の林学博士として、大宮公園をはじめ、全国各地の公園の設計や国立公園の創設にも尽力したことから「日本の公園の父」と呼ばれています。現在の久喜市菖蒲町に生まれ、9歳の時に父親が急死すると、多額の借金が家に舞い込み、苦しい生活を強いられました。農閑期は上京して勉学に努め、農繁期は帰省して農作業に励みました。いわゆる天才肌の人ではなく、人の何倍も努力して偉大な業績を収めました。

大きな可能性に満ちている皆さん一人一人が、本多静六博士のように努力し、夢の実現に向けて挑戦し活躍することが、歴史的課題に直面する埼玉県ひいては日本を元気にする大きな原動力となります。埼玉を愛する皆さんの多彩な活躍を心から願っています。

令和8年1月

埼玉県知事 大野元裕